

平成26年台風11号による被災と復旧

(宝塚市切畑字検見)



平成26年3月13日の降雨により崩壊した山腹斜面が、同年8月台風11号により拡大崩壊した。

上写真の向かって右斜面（黒っぽい）は風化した凝灰質頁岩、左斜面（草が生えている）は風化した砂岩
下写真は崩壊上部で比較的固い岩盤が露出している。



崩壊斜面に法枠工を施工するため、斜面に堆積した土砂については、掘削機を水平に保ち、急斜面を掘削出来るロッククライミングマシーンを使用して掘削した。



法枠工

崩壊斜面を「枠」で抑えて、斜面の①風化②侵食③拡大崩壊を防止

鉄筋挿入工

鉄筋が抵抗力を発揮し、地盤の変形を拘束
斜面の安定性向上



平成 26 年台風 11 号による被災と復旧

(西宮市山口町下山口 (金仙寺))



平成 26 年台風 11 号により西宮市山口町の金仙寺湖周辺では数多くの斜面崩壊が発生した。

金仙寺湖は西宮市民の飲料水をためる重要な水源池であり、崩壊を放置すると大雨により土砂が湖内に流入するため早急に復旧した。



集中豪雨により、①溪流は V 字状に深く侵食され大量の土石が流出 ②山腹斜面は U 字状に侵食され表層土砂が流出



治山ダムに堆積する土砂で、溪流が緩やかなり縦侵食を防止すると共に、山脚を固定（溪岸の侵食防止）することで山腹斜面が安定し森林が復旧



階段状の土留工により、傾斜が緩やかになり表面侵食を防止
水路工と暗渠工により雨水と地下水を速やかに排除し、斜面の安定性を向上